公益社団法人
日本表面真空学会
The Japan Society of Vacuum and Surface Science

e-JSSNT THE JAPAN SOCIETY OF VACUUM AND SURFACE SCIENCE

CCライセンスに関する取り組み事例紹介

公益社団法人 日本表面真空学会
広報担当理事・電子ジャーナル委員　赤木 和人（東北大学）

目次

(1) 日本表面真空学会の紹介

(2) 電子ジャーナル 「e-JSSNT」の紹介

(3) Creative Commons ライセンスの導入にあたって

- e-JSSNT での先行導入
- 学会としての考え方の表明
- Copyright Transfer の扱い
- 著者への説明
- 適用の例外処理
- 査読システムの改修
- 機関リポジトリへの対応

背景に
「オープンアクセス」
「オープンサイエンス」
の流れが

日本表面真空学会の沿革

1958年　真空協会 設立
（真空技術研究会と
真空機器協会の合併）

1974年　日本真空協会に改称

1979年　日本表面科学会 設立

2008年　社団法人
2011年　公益社団法人

2008年　公益社団
2012年　日本真空学会に改称

2018年　合併により　公益社団法人 日本表面真空学会 The Japan Society of Vacuum and Surface Science　に

個人正会員 1,669名、学生会員 392名、法人会員 114社（2018年7月12日現在）

日本表面真空学会の活動

表面と真空に関する科学・技術とその応用についての
研究発表知識の交換、表面科学・真空科学の進歩と
人材育成、一般社会への普及・利用促進　を図る

(1) 研究成果の討議・交流を目的とした学術講演会、研究会等の開催

→「日本表面真空学会 学術講演会」「International Symposium on Surface Science（ISSS）」ほか

(2) 教育・育成を目的とした講習会、セミナー等の開催

(3) 研究成果の公開を目的とした学会誌、学術図書及びデータベース等の刊行

→「会誌 表面と真空」「e-Journal of Surface Science and NanoTechnology」および各種図書

(4) 技術者の資格認定・付与

→「表面科学技術者資格認定事業」「真空技術者資格認定事業」

(5) 規格・標準の調査、制定と推進

および、活発な支部活動と部会活動

「ソフトナノテクノロジー」「電極表面科学」「触媒表面科学」「放射光表面科学」
「表面分析研究」「摩擦の科学」「プローブ顕微鏡」「データ駆動表面科学」

e-JSSNT 誌の紹介

日本表面真空学会の国際情報発信

戦略の三つの柱

学術集会：International Symposium on Surface Science (ISSS) 等

論文誌：e-J. of Surface Science and Nanotechnology (e-JSSNT)

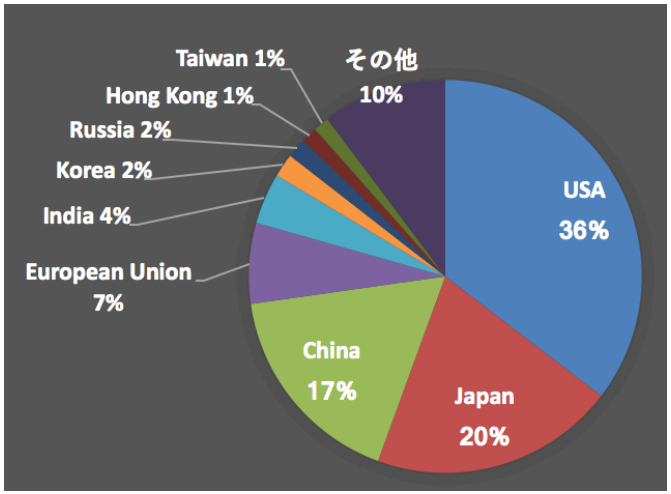
表彰：ハインリッヒ・ローラー メダル、国際フェロー制度

「e-JSSNT」へのCreative Commons ライセンスの導入

フルオープンアクセスで電子媒体のみの原著論文誌
として２００３年に創刊

- 近年のPDFダウンロード数：8〜10万件/年
- Cite Score 0.46

ジャーナル数が世界的に急増する中、
表面科学分野を中心とする日本発の情報発信を強化したい



2013年2月〜
ジャーナルのガイドラインの見直し検討に際して Creative Commons の存在を認識。
「CC-BY」採用の方向で検討。Copyright Transfer に照らして全面移行可能と判断。

2014年7月
J-STAGE 説明会（6月）での Creative Commons 表示が始まる旨の情報を受けて、
学会理事会にて CC-BY の導入を承認。2次利用の許諾に関するやり取りからも解放！

思い切って進めたけど、見落としはなかった？？？

公益社団法人
日本表面真空学会
The Japan Society of Vacuum and Surface Science

オープンサイエンスの波

2015年12月までに「会誌」にも CC-BY-NC 2.1JP を導入
ただし、アクセス制限期間は保持（当時2年間、現在1年間）

ところで、、、会員の意識は追いついているのか？
学会として啓発をしなくてはならないのでは？？

ちょっと寄り道

学会としての考え方の表明

会誌『表面科学』の 2016年6月号にて
「研究論文に関わる最近の社会動向」を特集（会誌への導入の準備）

オープンサイエンス時代における日本表面科学会
荻野　俊郎（日本表面科学会　会長）
→ **日本表面科学会としてのオープンアクセス化の指針と取り組みの推進を表明**

オープンアクセスとオープンサイエンスの最近の動向：ビジョンと喫緊の課題
林　和弘 （科学技術・学術政策研究所）
→ **研究者の立場に沿ったオープンアクセスとオープンサイエンスの動向のレビュー**

オープンサイエンスと論文著作権
谷藤　幹子　（物質・材料研究機構）
→ **研究の現場から見る論文著作権の現状と論点を整理**

京都大学オープンアクセス方針の目指すもの
天野　絵里子　（京都大学学術研究支援室）
→ **機関リポジトリの現場からの報告**

Creative Commons ライセンスの導入にあたって

– 点検事項

水野 祐
「オープンアクセスとクリエイティブ・コモンズ採用における注意点：
開かれた研究成果の利活用のために」
情報管理、第59巻 433-440（2016）.
DOI https://doi.org/10.1241/johokanri.59.433

クリエイティブ・コモンズを採用する際の手順と注意点（上の記事による）

- 採否の検討
- ライセンスの選定
- 利用・投稿規約の策定または修正
- 著者への説明
- 誌面あるいはWebサイトへの表示

を参考に事後点検

Creative Commons ライセンスの導入にあたって

– 点検事項

・Copyright Transfer の扱い

Creative Commons (CC-BY) 導入後も、従来型の強力な Copyright Transfer を継続

→ オープンアクセス・オープンサイエンスの流れの強まりを受けて**廃止を決定**

→ 現在論文に掲載しているcopyrightは削除し，CCのロゴと内容を記載する

・（出版済みの論文の）著者への説明

義務はないものの何らかの対応を検討

→ 個別の連絡は取らず、Webサイトへの表示で済ませることに

Creative Commons ライセンスの導入にあたって

– 点検事項

・適用の例外処理

一括移行の際、第3者が著作権を有するコンテンツへの対応は盲点だった

→ 図表を借用しているなど CC-BY の対象外となる論文の特定作業

→ 例外である旨の表示法の検討

・投稿査読システムの修正

導入時の ScholarOne Manuscript のままでは、投稿論文が CC-BY の要件を満たしているかどうかのチェックができない

→ チェックシートと宣誓文の掲載へ

Creative Commons ライセンスの導入にあたって

– 点検事項

・機関リポジトリへの対応

これも盲点。
CC-BY ライセンスの適用を明示したので機関リポジトリへの収録は J-Stage で公開している組版済のPDFファイルを含めて制限はない。

⟷
機関リポジトリへの収録ポリシーを扱うSCPJの「学協会著作権ポリシーデータベース（http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp）」の登録内容が古いままで、「リポジトリへの収録は不可」を意味する White と表示。

→ 変更申請へ

最後に

早期にCCライセンスを導入して良かったのは事実。

ただし、事後対応が生じてしまったのは反省点。

よろしければご参考に。